印象の数々

海外

宮島新三郎

東京を立つてからもう一週間になる。それなのに、あはたいしい気持のみが先になつて、少しも落着かない。そして未だに東京駅で眞心こめて送つて下さつた諸先輩、友人知己、学生諸君の顔がチラ〳〵と眼蓋を刺戟する。こう一週間、さて何をしたらうかと思ひ出して来ると、いろ〳〵ものが一時にわさわさレンズの中へ宣り合つて這入つてまゐる。弱ど統一が付かない。

取入れるには確かに選ぶべきものを取入れたのだが、それを受納れる準備が感覚的にも知識的にも出来てゐるかつたとゝのすゝ外はない。いはゞ釣りた強過ぎる光線で写真を映すやうなもので、眞白にあつてゐる。かゝるとあるもあり印象も同じである。我邦眞に埋込むことの如きに精神的に投失の嘆いか